

「武蔵野市の地域課題について 令和 5 年～ 6 年度 相談支援ネットワーク部会からの提言」

【武蔵野市の地域課題 3 点】

- A. 誰もがゆるやかにつながれる居場所づくり**
- B. ライフステージをまたいだ零れ落ちることのない相談支援**
- C. 分野を超えた支援者間のネットワークづくりと資質向上**



【提言】

- **誰もがゆるやかにつながれる居場所づくり**

既存の社会資源などを無理なく活用する。

新たな居場所をつくる。
- **ライフステージをまたいだ零れ落ちることのない相談支援**
- **分野を超えた支援者間のネットワークづくりと資質向上**

既存の相談支援ネットワークむさしのとの合同交流会を行った

武蔵野市地域包括ケア人材育成センターの説明を受けた

その他. a.ほしい情報を手に入れやすくする仕組み
b.緊急時の対応方法（地域生活支援拠点等事業含む）
c.障害福祉サービス（移動支援）
d.ピアサポーター養成

【意見】

- ◆ 各部会で協議されたことの施策への反映
（案）次期、障害福祉計画に盛り込まれることを強く希望する。
- ◆ 各部会の活動が次期に引き継がれていく仕組みが必要
（案） 3 年計画にしてはどうか。2 か年の各部会活動が、次期の活動に引き継がれていくことが求められる。次期の部会員の新しいアイデアはもちろん大切だが、積み上げていくための仕組みが必要。長期計画とビジョンを作って取り組めると良い。ミッションとビジョンが残るような提言をする。行動をしたことを施策に反映することはもちろん、提言したことが施策に反映されなければならない。行動を評価しないとサイクル回らない。

● 既に取り組んでいることから施策へ・提言から施策へ 自立支援協議会専門部会の提言が施策に反映されるために私たちにできること

地域課題	今あるもの (社会資源)	あったらいいな (多角的なアイデア)	既に取り組んだこと→施策 提言→施策
<p>A. 誰もがゆるやかにつながれる居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のあるなしにかかわらず食事や喫茶、おしゃべりができる緩やかな場所 ・居場所を使う人の属性の偏り（高年齢、男性が多いなど）がある ・障害福祉サービスに抵抗がある人の居場所、若年層も利用しやすい場所がない ・「寂しい」「話を聞いてほしい」といった要望に応える居場所 ・公的な支援につながらない人の居場所 ・障害種別を超えた場が少ない【クロスディスパリティ】 ・障害のある方が自然なかたちで地域の方と交流する機会 <p>【当事者部会 12/16 聞き取り（5名）45歳～65歳】 誰でも気軽に使える場</p>	<p>地域活動支援センター、コミュニティセンター、マンガ喫茶、若者サポートステーション、デイケア、iki なまちかど保健室、当事者部会、ふれあいカフェ、当事者の集まり、地域福祉の会の居場所、こども食堂など</p> <p>・武蔵境の境南町にあるフォークソング居酒屋、SNSで繋がっているゲーム上の友人（夜間も繋がることができるたまり場）、東京もうろう者協会（もうろう者友の会＝24時間対応）</p> <p>・愛知ではサードプレイスと言われる場があり、障害に特化せず会員制。武蔵野市にもあるといい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もがふらっと行ける、同じ生きづらさを抱えた当事者の集まりなど多様な居場所 ・気軽に集まれる、話をしに来ることができるといようなおしゃやな（障害福祉感のない）カフェスペース（積極的なコミュニケーションというより自然に発展していくイメージ） ・無料のインターネット環境 ・支援情報がわかる定期的なイベント ・障害を受け入れてくれるテンミليونハウス ・計画相談がついていなくても経過を追う機関 ・居場所で分野を超えたネットワークづくりができると面白い ・ピアサポーター育成やフォロー ・ふれあい居酒屋 <p>・だれもが行っていい場所、だれにも邪魔されない場所（おいしいものがあつたらなおいい）歌ってもいいし、騒いでもいい場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害の地域活動支援センター ・お泊まりができる場 ・当事者部会そのものが活性化して居場所のようなものになるといいな ・緊張しなくていい場所 	<p>（提言）</p> <p><u>a.既存の社会資源などを無理なく活用する</u></p> <p>小規模で細く長く続けられるようにすることで利用者也受け入れる側も楽しく続けられることが大切。</p> <p>（例）いきいきサロン（多世代・共生社会推進プログラム加算）、テンミليونハウス、地域支援課主幹のカフェとのコラボレーション、MEW 食堂、介護保険の事業所（とらいふ武蔵野）、その他福祉事業所の空き時間活用</p> <p><u>b.新たな居場所をつくる、開拓する</u></p> <p>無料で「そこに居るだけ」を叶えられる一定の広さがある場</p> <p>（例）赤星亭を確認→居場所の可能性を来年度の当事者部会で検証</p> <p>※その他：大学生を活用（大学は地域と繋がる予算を持っているところがある）</p>

地域課題	今あるもの (社会資源)	あったらいいな (多角的なアイデア)	既に取り組んだこと→施策 提言→施策
<p>B. ライフステージをまたいだ零れ落ちることのない相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージをまたいだ相談ごとの対応（支援が途切れたりスムーズな支援に困難をきたしている、地域活動支援センターなどに通えなくなった人のフォローが必要） ・介護保険（高齢）サービスへの移行 65 歳以上の方が増え、知らないからうまく使えないことがある 利用できる場所が年齢や障害種別に分かれているが、障害分野に比べると高齢が利用できる建物は通所、宿泊共に多い ・児童・成人・高齢の移行期、はざまの支援 ・既存のサービス、資源に繋げるシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス、介護保険サービスなどライフステージごとの支援機関 ・障害者福祉課 CW、相談支援専門員、主任相談支援専門員 ・相談支援ネットワーク部会、相談支援ネットワークむさしの（そうだねむさしの）、東京都相談支援専門員ネットワーク ・テンミリオンハウス、ゆとりえもったいない食堂、MEW 食堂 ・吉祥寺本町在宅介護支援センター（緊急 SS）、ナースケアたんぽぽ（看護多機能小規模施設）、老健、特養、有料ホーム ・わくらす、なごみの家、ダン・ウルス ・市役所各課 ・学校、放課後等デイサービス ・親の会、家族会 	<ul style="list-style-type: none"> ・よろず相談所 →支援者間の相談支援事業所ネットワークが軌道に乗ったら不定期で相談会を設ける ・教育医療従事者も含めた困難事例検討会、ひとりの人の人生を支えていくような事例検討会 ・入浴サービスの支給量は高齢の方が多 いなど障害と高齢の比較検討をしてサービスに反映する ・利用者要件の幅を広げること ・市独自の仕組みとして高齢者施設の一部を障害分野も利用できるようにする 	<p><u>相談支援ネットワーク部会とそうだねむさしの合同交流会</u> （令和 7 年 2 月 25 日開催） →ライフステージをまたいだ零れ落ちることのない相談支援に向けてのきっかけとなる取り組み</p>

地域課題	今あるもの (社会資源)	あったらいいな (多角的なアイデア)	既に取り組んだこと→施策 提言→施策
<p>【C.分野を超えた支援者間のネットワークづくりと資質向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援機関に所属する職員がつながる場、他分野の支援者同士が繋がる仕組みの強化（相手を知らないことによって連携が消極的になる） ・支援者がちょっとした困りごとを語れるような場 ・フォーマルな支援同士のつながりだけでなく、フォーマルとインフォーマルの支援者同士のつながり ・専門性を活かしながら、他分野に関する知識・技術を習得することは必須 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援ネットワークむさしの（そうだねむさしの） ・困難事例検討会など ・事業所見学会 ・障害と高齢分野の支援者同士のつながりは少しずつできてきているため、児童ともつながりたい ・家族支援をすると結果的に家族全体をひっくるめて支援を行うことになる ・武蔵野市地域包括ケア人材育成センターの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所ネットワーク →児童・障害・高齢部門、医療サービスにある既存のネットワークをつなげる（交流・連携）縦割りをどうにか崩すことができればいい ・他分野の支援者同士の連携強化の仕組み（支援者同士の顔の見える関係） ・事業所間の合同見学、事業所間連絡会（支援者による自分たちの取り組みを発信する機会） ・相談支援ネットワークフェア（仮）を開催し、子ども、障害、高齢の支援者同士や障害当事者同士がつながる機会を作る ・支援者間の情報共有のためのツール ・他分野に関する知識・技術を習得できる研修（座学と実習など）の仕組み 	<p><u>相談支援ネットワーク部会とそうだねむさしの合同交流会</u> （令和7年2月25日開催） →分野を超えた支援者間のネットワークづくりのための取り組み</p> <p><u>武蔵野市地域包括ケア人材育成センターとの連携</u> （令和7年1月23日開催の第7回相談支援ネットワーク部会にて人材育成センターの方から説明を受ける） →今後、人材育成についての助言、研修についての意見交換などを行えると良い</p>
<p>【その他：a.ほしい情報を手に入れやすくする仕組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野や枠を超えた複合的な相談支援が必要な時に誰に相談してよいかわからない（今必要なサービスが何か、利用できるサービスが何かわかりにくい。課題が他分野にまたがるような場合、適切な支援につながりづらく情報が集約されていない） ・フォーマルだけでなくインフォーマルの社会資源を集めることができる場所があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアリピック武蔵野（高齢）、あったかまつり（障害）、子ども・子育てフェスタ（子ども）各分野毎年催しものがある ・相談支援ネットワークむさしの（そうだねむさしの）、相談支援ネットワーク部会、地区別ケース検討会、訪看訪リハ連絡会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性やニーズに合った支援先などを紹介できる総合的な窓口 ・相談情報などを共有できるようなネットワークシステム情報を収集し発信する場所、機関、メディア（簡単にできる情報収集方法例：チャットボット、賃貸サイトのような条件検索できるもの、子どもたちが持ち運べるカフェの冊子） 	<p>武蔵野障害者公式 LINE、SNS の利用→チャットボットにつなげられると良い （他自治体例：宇都宮市はスマートフォンアプリでいつでもどこでもバリアフリー確認できる）</p> <p>事業化案として、若者サポートステーション登録者に情報収集、サイト制作、情報更新を依頼する</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・障害や年齢で相談先がわかれており、総合的な情報の共有が支援者間で難しい ・オンライン相談がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉のしおり、こころのつながり、各事業所の冊子 ・総合相談窓口、特定相談支援事業所、地域活動支援センターなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者が必要な時に必要な情報を受け取れる仕組み（居場所マップ、ひとつに集約されたマップ例）北多摩南部医療圏域高次脳機能障害支援マップ） ・指南役のような人材 	
<p>【その他：b.緊急時の対応方法（地域生活支援拠点等事業含む）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点等事業が事業所加算を算定できる事業所が限られている（緊急時の体制は質、量、精神障害の対応が不十分） ・医療的ケアが必要な方が緊急時に利用できる場 ・強度行動障害の受け皿 ・夜間休日長期休暇に SOS が出せない ・入院するまでもないけどご飯などのケアが必要な時に使えるところがない <p>【当事者部会 12/16】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談できるところはないかも 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問多機能型小規模事業施設、吉祥寺本町在宅介護支援センターのショートステイ、医療的ケアの方を受け入れるグループホーム、医療機関への社会的入院 ・医療機関、移動支援、行動援護、生活介護事業所、短期入所施設、タイムステイ（市単事業） ・地域生活支援等拠点事業、救急医療、ヘルプカード 障害者福祉課（17 時以降は虐待通報センター） <p>家族、SNS つながりの友人 地域活動支援センター 1 1 0 番</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点等事業の加算 ・訪問看護師訪問制度で利用事業所との委託契約（緊急入所時に慣れた支援者が自由に出入りして支援できる体制、訪問看護が夜間対応できる体制） 看護多機能の障害者も対応できるバージョン（昔は市内にあった）看護師常駐、看取りまで行い日中はダイニングテーブルで生け花、習字、おしゃべりなどの活動。 ・支援者のためのプラットホーム（他事業所を知る機会） ・ヘルプカードに QR コードのようなものをつけ、読み取ると必要な支援の詳細がわかる機能があると良いがセキュリティが心配（コロナの影響がある。当事者部会の活性化のために、継続して聞いていきたい） 	
<p>【その他 c.障害福祉サービス（移動支援）】気軽に使える移動支援の少なさ、地活などに継続通所するための移動方法</p>	<p>レモンキャブ、公共交通機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドヘルパー利用制限の緩和、簡易的な移動支援を行える独自の制度、レモンキャブの拡充と移動範囲の拡大 	
<p>【その他 d.ピアサポーター養成】</p> <p>ピアサポーター養成と活躍の場、フォロー体制が課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援塾（外から来た人にアドバイスできるインフォーマルなものがあるといい） ・市独自の養成研修があると良い 	